

## 「蛍の光」 驚きの事実！

卒業式の他に年末には何かと出番の多い「蛍の光」ですが、意外と知られていない驚きの事実があります。

### ◦原曲は再会を喜ぶ歌だった。

原曲はスコットランド民謡「Auld Lang Syne (古英語)オールド・ラング・サイン」(=Old long since 古き良き日々)で、懐かしい友達と再会し、思い出話をしながら酒を酌み交わす、という内容の再会を喜ぶ歌です。日本語歌詞の「蛍の光」とは対象的です。

### ◦閉店の音楽は「蛍の光」ではない。

店の閉店直前に流れるちょっと寂しい感じの音楽、そう多くの人が「蛍の光」と思っておられるようですが、正確にいうとそうではないのです。

これは4拍子の「オールド・ラング・サイン」という原曲を3拍子のワルツにアレンジした「別れのワルツ」という曲です。

1949年の映画「哀愁」のテーマ音楽でした。

そういわれると閉店の曲は3拍子で、4拍子の「蛍の光」と違っているのが分かりますね。まあどうでもええことですが。

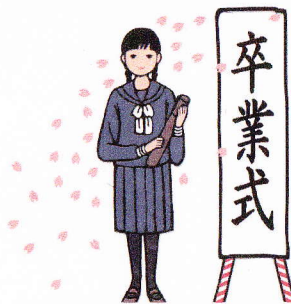
### ◦「蛍の光」のメロディは韓国(大韓帝国)の国歌(愛国歌)だった。

日本の軍国主義時代、日本の侵略に対し独立を目指した朝鮮の抵抗運動において、「蛍の光」のメロディで「わが大韓万歳！」が歌われました。

東海(日本海)の水がかれ 白頭山がすりへろうとも  
天がお守りくださる わが国万歳 (以下省略)

1897年(明治30年)、朝鮮国王高宗は国号を「大韓帝国」とし、1910年(明治43年)の「日韓併合」までの13年間、このメロディは「大韓帝国」の国歌として歌われていました。

抗日運動という日韓の歴史の辛い一面を思い起こさせる歌でした。



### ◦「蛍の光」は軍歌だった。

あるYoutubeには「〈軍歌〉蛍の光」となっています。ここには普通は歌われない3番4番が歌われています。まずこの歌詞を読んでみましょう。

蛍の光や 雪の反射光を使って本を読むなど、苦勞して勉學に励む日々を重ねてきたが、いつの間にか年月が過ぎてしまった。今朝は杉でできた扉を開けて級友と別れていく。

学校に留まる者も卒業していく者も、今日限りでお別れということで、互いに思う何千、何万という心の端々を、たった一言、「無事で」と歌うのである。

九州の果てであろうと東北の奥であろうと、海や山が遠く隔てたとしても、真心だけは場所に関係なく、ひたすらに力を尽くせお国のために。

千島列島も沖縄も、日本の守備内にある。派遣された辺地では勇敢に、「仕事」をしてください男性の皆さん、どうぞご無事に。

もともとは卒業式のために作られた歌なのですが、3番4番の歌詞には国家意識が大いに盛り上がった時期という時代背景がありました。

ロシアとの「千島樺太交換条約」により千島列島が日本の領土となったのが明治8年、琉球王国が「沖縄県」となったのが明治12年です。

そして稲垣千穎がこれを作詞したのは明治14年です。まだ軍国主義が台頭する日清・日露戦争よりずっと前のことです。

このように見ると卒業式ソングというより、日本の領土防衛の任務につく若者を見送る歌だったのです。

祖国を守るため家族や愛する人を守るために、任務に旅立つときの別れの悲しみを噛みしめている若者を、励ますために歌われた歌だったのです。

そのため、昔の大日本帝国海軍では海軍兵学校や海軍機関学校の卒業式典で「告別行進曲」という名称で歌われていた、ずばり“軍歌”なのです！

右翼的だ、国家主義などと思えるかも知れませんが、今の時勢だからこそ3番4番に今一度耳を傾けたいものです。

#### 蛍の光

蛍の光 窓の雪  
ふみ読む月日重ねつつ  
いつしか年も すぎの戸を  
開けてぞ今朝は 別れゆく  
  
とまるも行くも 限りとて  
かたみに思う ちよるずの  
心のはしを ひとことに  
さきとばかり 歌うなり

筑紫のさわみ 陸の奥  
海山遠く へだつとも  
その真心は へだてなく  
ひとえに尽くせ 国のため

千島のおくも 沖縄も  
八州のうちの 守りなり  
いたらん国に いさおしく  
つとめよわがせ 恙なく